

平和への願い

私にとって平和とは、いつもそばにあって当たり前のものでした。生まれたときから守られた環境、平穏な都城で育ち、戦争なんて言葉とは無縁だと思い込んでいました。しかし、今はこんなに平和な都城にも、恐ろしい戦争によって刻まれた悲惨な過去があったのです。

1945年8月6日。この日の昼、アメリカ軍による空襲が都城市街を襲いました。この空襲では、焼夷弾の投下や、消火活動をしている人々を機関銃で撃ち殺すなどの無慈悲な攻撃が、4時間にわたり繰り返されたそうです。当時都城は、人口13万人と、やや大きな町であり飛行場や工場があったほか、軍隊の基地もあったため攻撃の標的になってしまいました。攻撃をうけてすぐに亡くなった人。痛みを苦しみながら亡くなった人。一瞬のうちに尊い命が奪われてしまった辛く悲しい出来事。現在の都城からは想像できないような悲惨なことが78年前、確かに起こったのです。私はこのことを知ったとき、戦争の悲惨さや醜さを、今平和に過ごしていることへのありがたさを強く感じました。

この都城大空襲があった第二次世界大戦で被害を受けたのは、都城だけではありません。8月6日に広島、そして8月9日に長崎に原子爆弾が投下されました。それは、一瞬で全てを飲み込むほどの威力を持ち、強力な放射線で多くの人々にとつてもない被害を及ぼしました。その原爆で受けた影響は、現在でも残っており、未だに戦争の苦しみに解放されていない人もたくさんいます。この戦争において日本は、多くの人が犠牲になり、尊い命や何気ない日常を奪われた被害国です。しかし、それと同時に、相手国の人々の罪なき命を奪い日常を壊してしまった加害国でもあります。同じ人間同士で殺し合うような戦争は、もう二度と起きてほしくありません。

終戦から78年たった現在の日本は、とても平和です。しかし、日本から離れたウクライナでは、1年以上前から始まったロシアとの戦争が今もなお続いています。私たちが普通に学校に通い授業を受け、友達と笑い合っているときにも、世界中のどこかでは戦争によって苦しんでいる人がたくさんいます。そういった人々にとって、私たちが今送っているこの「普通」に思える生活は、「特別」なものなのです。私たちにとっては当たり前だけど、その当たり前を望んでいる人がいるということを忘れてはいけません。戦争は、いろいろなものを壊し奪いますが、何も得るものはありません。ただボロボロになった町と悲しみや苦しみ、怒りが残るだけです。これからの平和を担っていく私たちは、戦争という過去の過ちを二度と繰り返さないために努力していく必要があります。それは、戦争の記憶を後世に伝え、人々の想いを風化させないこと、互いを尊重し思いやりを持つことです。自分の町が、自分の国が平和ならそれでいい、そうではありません。一人一人が、戦争と真剣に向き合えたとき、本当の平和につながっていくはずだと私は思います。

最後になりましたが、これからを担っていく私たちが今後の平和な世の中を築いていくことを誓うとともに、戦争によって亡くなられた方々に心からご冥福をお祈りして、平和へのメッセージといたします。